

●4月は母子の健康月間です。

室蘭北ロータリークラブ

会
報

むらんど汁

室蘭岳



Rotary



2022~2023年度 国際ロータリーテーマ

IMAGINE ROTARY

「イマジン ロータリー」

2022~2023年度 RI会長 ジェニファー・ジョーンズ

2023年4月4日(火) 第2416回 例会

第2510地区 日本 (DISTRICT 2510 JAPAN) ●会長:西野 義人 ●幹事:内池 秀光 ●編集:クラブ会報委員会(担当/田中 健太)

本日のプログラム

献血例会 献血会場:モルエ中島

奉仕プロジェクト委員会・社会奉仕委員会主催による献血です。多くの方の呼びかけをお願いします。

奉仕プロジェクト委員会・社会奉仕委員会



洋食ランチ (クラムチャウダー、クラブハウスサンド、フルーツムース)

※例会終了後、定例理事会を開催致します。

次回の予定プログラム

卓話「一般社団法人登別室蘭青年会議所 2023年度の取り組みについて」

一般社団法人登別室蘭青年会議所
理事長 及川 雄也 様
プログラム委員会



和食ランチ (幕の内弁当、お椀、甘味)



ニコニコBOX

本間信 (右肩だいぶ良くなりました)
松田博文 (お久しぶりです&お見舞いのお返し)
西野義人 (少年野球屋外での練習が始まりました)
川本康裕 (アリシャさんが離蘭しました。ローターアクト全研が金沢市で開催・参加しました)

出席報告

| | | | |
|--------|-----|------|--------|
| 会員数 | 51名 | 出席者数 | 24名 |
| 出席免除者数 | 0名 | 欠席者数 | 27名 |
| 出席義務者数 | 51名 | 出席率 | 47.05% |

前回までの例会の報告

第2415回 (3月28日) 例会記録

【副会長報告】

1. PET並びに地区財団セミナー・地区米山セミナーの報告

【副幹事報告】

1. 例会終了後、次年度理事会を開催します。関係者はお集まりください。



今年度の目標であるフードロスの解消

現在なお出欠のご連絡がない方がおられます。欠席する際は必ず事前に連絡を入れてください。

【委員会報告】

1. 社会奉仕委員会 太田委員長より
献血例会のお知らせと献血呼びかけのお願いについて
2. 米山記念奨学会世話クラブカウンセラー 川本康裕会員より
3月21日ロイトン札幌にて2022年度米山記念奨学生終了式並びにカウンセラー感謝状授与式に参加しました。

各種記念日

| | | | |
|--|-------|----------|-------|
| | 誕生記念日 | 猪村 裕美 会員 | 3月22日 |
| | 誕生記念日 | 塚田 智憲 会員 | 3月25日 |
| | 誕生記念日 | 徳永 賢二 会員 | 3月31日 |
| | 結婚記念日 | 千葉 大和 会員 | 3月22日 |
| | 結婚記念日 | 菅原 義男 会員 | 3月25日 |
| | 創立記念日 | 藤井 徹也 会員 | 3月25日 |
| | 創立記念日 | 菅原 義男 会員 | 3月29日 |

●例会場 アパホテル室蘭

●事務所 室蘭市中島町2丁目28-6 (アパホテル室蘭)

●電話 0143-45-6569

●URL <http://murokita-rc.org/>

●例会日 毎週火曜日 12:30 P.M.

●FAX 0143-50-6578

●E-mail mur-n.rc@athena.ocn.ne.jp



卓話「電力ネットワーク 事業のご紹介」

川原 陽一 会員
プログラム委員会

2020年4月、北海道電力(株)は送配電部門業務の一層の中立性・公平性を確保する観点から、法令の定めにより分社化して「北海道電力ネットワーク(株)」を設立、電力ネットワーク事業を担うことになりました。

室蘭支店は、西胆振地区の3市4町を受け持ちエリアとして、送配電設備の建設、維持、運用等を行っており、これら設備は消費地までの電力を輸送するインフラ(=電気の“道”)としての役割を担っております。(発電所から託された電気を消費地へ送り届けることから、「託送供給」と言われております)

託送供給は、送電設備、変電設備、配電設備を通じて行われており、所定の周波数、電圧、設備容量を逸脱しないよう、日々、様々な計測や計算に基づき運用・管理を行っております。

配電設備に起因した停電発生時は、自動再閉路方式により停電エリアを縮小のうえ、技術員による巡視・点検により不良箇所を特定し、復旧作業を行っております。最近では不良箇所の早期発見に向け、ドローンを活用した設備状況の確認なども行っております。大規模・長時間停電の場合は、移動発電機車(電源車)による応急送電なども行っております。

カーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギーの導入拡大を図っていくため、送配電設備の増強や系統運用技術の高度化等に取り組んでおります。2028年3月に新々北本連系線(30万kW)の増設が予定されており、洋上風力を見越した海底直流送電線(200万kW)の新設(2030年)が検討されております。

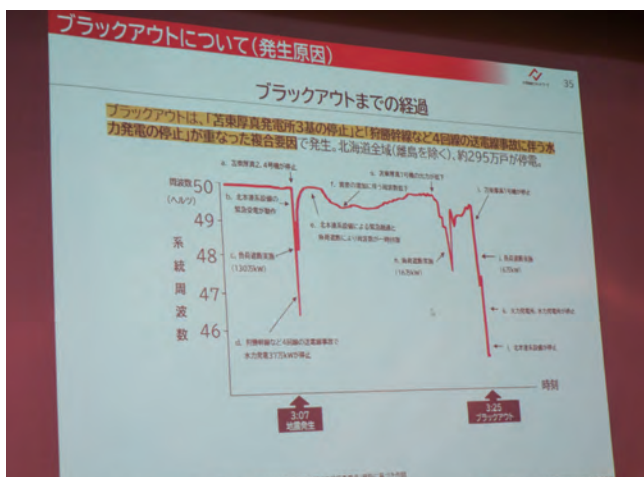


再生可能エネルギーの導入拡大を図っていくうえで、北海道内の電力需要の拡大が一層重要となってきます。カーボンニュートラルへの取り組みと連動して、給湯・暖房等の電化シフト(エコキュート、あったかエアコン、IHクッキングヒーター、EV(電気自動車))の取り組みを強化し、省エネ・脱炭素化に貢献していきます。

特に、EVについては、ランニングコスト(電費)が相対的に安価であり、災害時や行楽施設(キャンプ場など)において「蓄電池」として活用できます。国の補助金事業や各種リースもありますので、買い替え時には是非ご検討ください。

電気の使用量の計量は、屋外の壁に施設している電力量計により行っておりますが、2015年度より、機械式メーターからスマートメーターの設置を進めており、約9割の設置が完了しております。2023年度末までには道内全域に設置を完了する予定であり、スマートメーターの無線通信網を活用した新たなサービスについて準備を進めております。

今後とも、安定供給と再生可能エネルギーの最大限導入の両立に注力するとともに、地域の皆さまと新たな価値を創り上げる「共創」の理念に基づき、地域課題の克服や経済の発展に取り組んでまいります。



川原会員の卓話を拝聴し、いつも何も考えずスイッチを付ければ当たり前点灯する電機の送電事業について興味深いお話を聞けました。

胆振東部地震のブラックアウトがどうして起こり、復旧までに時間差がなぜあったか等、説明も分かりやすく、時間の関係上最後まで聞くことが叶わず、ぜひパート2として再度、卓話を聞いてみたいと思いました。川原会員ありがとうございました。(K.T.)

STOP! フードロス

ちょっとした心構え、思いやりで
フードロスは解決できます。



廣瀬 禎 会員

「フードロス」とは食糧が無駄に捨てられていることを言います。現在、日本のフードロス量は年間522万トンにも及び、これは実に世界の食糧支援量(422万トン)の1.2倍に及ぶそうです。世界の人口が70億人を突破したら地球はもたないであろう、そう言われたのが十数年前の話です。現在すでに70億人を突破し、2050年には97億人になると言われています。そして、いま世界の人口の1割、7億人が飢餓に苦しんでいます。

私自身振り返ってみますと、学生時代はいつも腹をすかしていたものでした(私と同年代、それより上の世代の人たちは大方そういう経験をしたはずです)。戦時中、ガダルカナル、ニューギニア、ミャンマーなど、戦地で戦死した兵隊の多くは飢えによる死亡でした。腹のすくくらい辛いことはありません。

IR国際ロータリーでは「ポリオ撲滅」だけでなく、飢餓対策に対しても力を入れております。最近、当室蘭北ロータリークラブでも「フードロス問題」が指摘されています。ロータリーでの奉仕は、単にお金を寄付するだけではなく身をもって行動、活動することが重要であることが説かれています。寄付や行動によって奉仕する一方、自らフードロス

を大量に発生させているとしたら随分おかしな話しになります。

ロータリーは例会が基本です。そこでは必ず食事が提供されます。その数を決めるためには出欠の是非が必要となります。毎週、回覧で又はFAXで回答を求めています、その回答をしない会員が増えてきていて事務局を困らせております。そのため斎藤聡出席委員長自らがメールで確認している、それでも連絡してこない会員がいると私の耳に入ってきております。

クラブとして万が一のため5~6食分は余分に手配しており、それがロスに繋がっているのが現状です。もしそういう会員が自分の会社の顧客、取り仕切先から、そのような回答を求められたらどうでしょう?“知らぬ存ぜぬ”はしないでしょ。

もっとロータリークラブを真摯に見つめるべきだと思います。せっかくロータリアンになったのですから、もっと楽しく有意義な実りあるものにしませんか。当クラブの「フードロス問題」会員のちょっとした注意、心構えで、ロータリーの精神である“他者への思いやり”で簡単に解決することが出来ます。

米山記念奨学生

感謝の言葉 米山記念奨学生 アリシャ・ヌルシャフィカ・ビンティ・アマト・ダラン 様

私は室蘭工業大学からのアリシャ・ヌルシャフィカ・ビンティ・アマト・ダランです。ロータリー米山奨学生として2年間に室蘭北ロータリーの皆さんにお世話になっておりました。特にカウンセラーの川本先生にはいろいろ大変お世話になりました。いつも私に優しく、いろいろなことを応援してくれました。米山奨学生になった通りに、私は奨学金をもらうことだけでなく、大学で工学を勉強する以外に色々なことを経験できました。様々なロータリークラブのメンバーと交流できて、大切なアドバイスを聞いていただきました。そして、果物狩りや食事会を一緒にやってきました。また、私はロータリーアクトクラブを参加しました。ロータリーアクトクラブでは私が日本についてもっと学べ、日本でボランティア活動もやりました。その時、知識やコミュニケーション能力をよくして、新しい友達もできました。本当に楽しかったです。

ですから、米山奨学生になったことが本当にありがたいです。2年間でお世話になった思い出は忘れずに、いつも大事にしたいと思います。その際に、大切な経験が多くもらいました。それから、カ

ウンセララーの川本先生、室蘭北ロータリーの皆さま、およびロータリーアクトクラブメンバーに対して、もう一度大変ありがとうございましたという言葉を送りたいです。卒業後に、横浜市で就職する予定です。そのため、室蘭で経験した多くの事を横浜の会社に働く時も生かして行きたいと思います。最後にマレーシアと日本の架け橋になれるような人間になれるよう頑張りたいと思います。





あのときキミは若かった

会社経営の経験だけでなく、
ロータリークラブの経験も自分に
とっては有益なものとなっています。

第4回

菅原 義男 会員

2009年(平成21年) 入会

—菅原会員この写真はいつの時のものですか。

菅原義 これは2011年(平成21)12年前のものですね。この時会長は斎藤泰成さんで、親睦委員のタスキ掛けていますが、クリスマス家族例会の時のもので親睦委員長は亡くなられた岩本信平さん。家族もたくさん見えられアトラクションやオークションなど盛り上がり、楽しかった思い出です。

—写真見るとまだ若々しくて、仕事もバリバリの頃だったじゃないですか。

菅原義 還暦前でまだ若かったんですね(笑)当時、時代も良かったせいもあり会社の業績も伸びていて意欲的でした。新規事業としてガソリンスタンド経営に挑戦しました。しかし群雄割拠、熾烈な競争の業界、また自身の力不足もあってあえなく撤退。いろいろ苦い思い出も、今となつてはいい経験したと思つてます。

—その頃のロータリークラブってどんな感じでした。



2011年(平成21)

菅原義 実は私一度入会して途中退会しているんです。



菅原義 先輩の熱心な勧誘で再入会しましたが、最初の入会の時もそうですが何より出席はうるさく言われましたね。だから何も分かってなかつたですけど、休まず出席だけは心掛けました。

—ロータリーに入つてなにか得るものを感じましたか。

菅原義 そんなことを考える程の余裕なんかありませんでした。月に1回程度夜間例会があつて、終わればみんなで二次会に繰り出すんですが、私はどちらかというと人見知りというか、あまり自分から接近していく方ではないんですが、そんな二次会の席でお酒も入つて、平素付き合ひの薄い人とも親しくなるようになりました。

—3年前、会長を務められました。だが、コロナが蔓延し大変な時でした。その辺の苦労話をお聞かせください。

菅原義 会長就任して半年経過した頃、コロナが蔓延し日本全国大変な状況下となりました。例会を開催するにしても感染対策で会場の消毒、座席の位置、食事の手配等大変な思いをしました。藤井徹也さんが幹事として私の足りない分をサポートしてくれ助かりました。

ただ、加藤栄吉ガバナー補佐、内池秀光補佐幹事、西野義人実行委員長が開催に向け準備に奔走した。Mが中止を余儀なくされたことは、会長の私としても残念至極でなりません。次にまた廻つてくるM、その時は室蘭北ロータリークラブ総力を挙げ挽回してほしいと思います。

—最近お体の調子が良くないと聞いています。いかがですか。

菅原義 3年前前から左目の調子が悪く眼科に通いましたがいい治療法がないと言われました。右目でいたわりながら生活しているところなんです。それに加え耳の方も、左耳が超難聴と診断され、補聴器を試みましたが、さすがにも私の耳には合わず、聴き取ることが難しくなっています。加齢とともに正直いろいろ支障も出てきました。

—ストレス解消の方な何かやられていますか。

菅原義 無趣味というか仕事しかできない方なんです。会社では会長の立場で皆の邪魔にならない程度に作業をしております。それがストレス発散でしょうか。強いて言えば休みの日、近場の温泉に行つてリフレッシュするくらいでしょうか。



—最後に現在のクラブについてどんなことでも結構です。お聞かせください。

菅原義 3年余りコロナで自粛を余儀なくされて、これによりクラブ内の疎通、まとまりの面が希薄になったのは否めません。コロナが収束するこれから会員同士のコミュニケーションを深めるためにも、飲食の場を増やすのも方策だと思います。個人的な意見ですが、毎週の例会、回数を減らすとか、時間帯を変えるとか出席しやすい方策を講じていくのも大切なことではないでしょうか。

取材後記

会長就任にして半年でコロナ禍になり、多くの難しい局面を迎え決断をされてきたんだなと改めて思いました。もし、自分だったらと想像すると菅原会員のように決断できなかつたと思います。今後もお体の調子にもお気をつけになって、例会に参加され私達、若い会員たちに参考となるお話をお聞かせ頂ければと思います。貴重な経験談ありがとうございました。

interview 内池 孝年